

就農支援センターってどんなところ？

J A 福岡八女が、農業の新たな担い手を育成する研修施設として、平成27年に設置したものです。研修棟や格納庫のほか、栽培用ハウスや育苗・採苗施設などを有しています。

栽培技術指導は、部会から選任された農家指導者を中心に、J A 営農指導員、八女普及指導センター普及員からの技術指導も行っています。

現在まで計35人の研修生が卒業し、J A が斡旋した遊休ハウスなどを活用して就農しています。



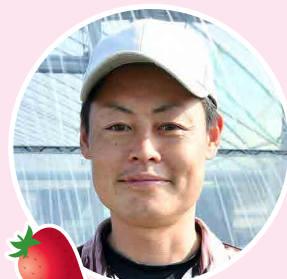
木本 雅浩さん
(大分県・30歳)

前職は、大阪府で調理師をしていました。妻が福岡県出身で「福岡県で農業をするなら八女が良い」と紹介を受けました。研修を通して、地元の人々や研修生たちなど、いろんな人脈を作れたらと思います。将来は夫婦2人と子どもと、農業をやりながら幸せな家庭を築いていきたいです。



清藤 誉也さん
(八女市・29歳)

子どもが4人いて、「家族との時間をもっと持ちたい」「何か新しいことに挑戦したい」という思いから、研修を希望しました。1日1日を無駄にせず早く胸を張って1人前の農家になったと言えるよう、また、農業をする自分の背中を見て子どもたちが良いなと思ってくれるよう頑張ります！



永田 勝也さん
(八女市・40歳)

妻の妹夫婦が数年前からブドウ栽培を始めていて、手伝ううちに自分も農業をやりたいと思うようになりました。研修では、栽培の手順など、おいしいイチゴを育てる技術を学びたいです。就農に携わってくれた仲間「頑張ってるね！」と言われるよう、家族で農業に励みたいと思います。



原田 昭さん
(北九州市・43歳)

前職は、ファミリーレストランの店長でした。「雇われではなく自分で手に職をつけたい」という思いで参加した、福岡市の就農相談会でセンターの紹介を受けました。まずは農業で生計を立てられるようきちんと研修を積んで、就農後、軌道に乗ったら栽培面積を増やしていきたいと思っています。



～研修②～ イチゴのランナーをピンで止めたりほぐしたりする作業



Memo



柳田 直紀さん
(宮崎県・40歳)

前職は、愛知県で工場の生産設備開発に携わる仕事をしています。「地元の九州に帰りたい」「独立したい」という思いや、植物としても食べ物としてもイチゴが好きで、センターでの研修を希望しました。就農後は、部会の平均以上の収量をあげられるよう、妻と2人で頑張りたいです！



JA 就農支援センター 第8期生の研修がスタート！



J A 就農支援センターでは、就農に意欲を燃やす第8期生7人の研修が6月1日から始まりました。それぞれ、イチゴ生産者とナス生産者としての就農に向けて、1年間実習や座学を通して学びます。



研修では、農機具や生産資材の使用法をはじめ、準備・管理・収穫といった栽培に関するすべての作業を実習で学びます。また、土壌分析や施肥設計、農薬の種類や簿記・税務、融資と補助事業内容などについて座学で学ぶほか、就農に向けた経営計画の作成も行います。



～研修①～ かん水設備について学ぶ

Learn



～入所式～ よろしくお願ひします！

Start



井寺 豪さん
(筑後市・36歳)

外回りの仕事で農家さんと接するうちに、大変だけど自分が頑張った分だけ成果が返ってくる農業に魅力を感じ、就農を決意しました。ナスは年間通して収穫できるし、どんな料理にも使えるので可能性を感じています。農業のことは全く分からないので、研修ではイチからきちんと学んでいきたいです。



末川 直樹さん
(久留米市・42歳)

ナス農家をやっている親戚から誘われたことがきっかけで本格的に就農したいと思うようになりました。知り合いの手伝いをしていましたが、途中からだったので、研修では土づくりなど基礎から学んでいきたいです。いずれは「末川さんが作るナスっておいしいよね！」と評判になるくらい頑張りたいです。